

(18) 情 報

1 設置科目及び履修要件

(カッコ内は標準単位数)

情報産業と社会	(2~4)	⇒	整理統合
課題研究	(2~4)		
情報の表現と管理	(2~4)		
情報テクノロジー	(2~4)		
情報セキュリティ	(2~6)	⇒	新設
情報システムのプログラミング	(2~6)	⇒	名称変更
ネットワークシステム	(2~4)		
データベース	(2~6)		
情報デザイン	(2~6)	⇒	整理統合
コンテンツの制作と発信	(2~6)	⇒	名称変更
メディアとサービス	(2~4)	⇒	新設
情報実習	(4~8)	⇒	整理統合



ここがポイント!

- 1 2科目を3つの分野と総合的科目に分類。
- 「情報産業と社会」「情報の表現と管理」「情報テクノロジー」「情報セキュリティ」は共通的分野の科目と位置付け。
- 「情報システムのプログラミング」「ネットワークシステム」「データベース」「情報デザイン」「コンテンツの制作と発信」「メディアとサービス」は応用的選択科目。
- 「情報実習」は、情報システム分野とコンテンツ分野双方の知識と技術を総合的に活用することができるようにすることをねらいとする科目。

2 教科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することをめざす。



ここがポイント!

知識基盤社会の到来、情報社会の進展、高度な情報技術をもつIT人材の需要増大を踏まえ、情報の各分野における専門性に関わる資質・能力の育成を図る。

3 各科目の内容（主な変更点等）

情報産業と社会	情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成から、問題解決やプログラミングに関する指導項目を取り入れ改善。
情報デザイン	情報デザインを考えるための情報収集や情報メディアの特性を生かしたデザインなど、情報メディアと情報デザインに関する知識の一体的な習得。
情報実習	課題解決の場面において、個人又はグループ活動を通して分野を越えて主体的かつ協働的に取り組む態度の育成のため、分野別の実習科目を統合した総合的な実習科目。

4 各科目の履修に関する配慮事項

- 原則として全ての生徒に履修させる科目（原則履修科目）については、「情報産業と社会」「課題研究」の2科目とした。
- 「情報産業と社会」については入学年、「課題研究」については卒業年で履修させることが望ましい。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」～情報科において育成をめざす資質・能力～

知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> 情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 情報産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築をめざして自ら学び、情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

「何を学ぶか」～情報科において重視する学習内容・学習活動～

<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報セキュリティに関する知識と技術を習得させ、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習 ○ 情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育成する学習 ○ システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な学習 ○ 情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な学習 ○ 問題解決やプログラミングに関する学習 ○ 統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習 ○ データベースの応用技術に関する学習 ○ ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習 ○ コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習
--

「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 試行錯誤することを通して自らの情報活用を振り返り、評価改善して、次の問題解決に取り組むこと。 ○ 生徒に達成感を味わわせ学習に取り組む意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適性に応じてより進んだ課題に取り組んだりすること。
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が協働して問題の発見・解決に取り組んだり、互いに評価し合ったりして、情報技術のより効果的な活用を志向し探究すること。 ○ 実社会の人々と関わるなどして、現実の問題解決に情報技術を活用することの有効性を、実感をもって理解すること。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活において問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用を探究していく中で「見方・考え方」を働かせ成長させること。 ○ 情報技術を活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、情報や情報技術等に関する概念化された知識、問題の発見・解決に情報技術を活用する力や情報社会との適切な関わりについて考え、主体的に参画しようとする態度などといった資質・能力を獲得していくこと。